

2月16日(木)

長浜っ子の絵画、ルーブルへ

「全国こども絵画コンクール」銀賞のびわ北小6年の柴田幸輝さん、長浜北小1年の大橋由菜さんが市長を訪問しました。柴田さんが描いた「そびえたつ長浜城」は一昨年に、大橋さんの「みらいのロボットがいるまち」は4月3日(月)までフランスのルーブル美術館で展示されるという快挙。色彩豊かでこのびのびとした作品を市長に披露した2人は、「絵を描くことが大好き」と目を輝かせて語りました。



2月18日(土)

卒業を飾る演奏、堂々と

長浜北星高校箏曲部による「春一番コンサート」が、長浜市民交流センターで開かれました。このコンサートは、日頃の練習成果を披露する場であるとともに、3年生の卒業記念として毎年開かれるもので、年に一度の大切な演奏会です。コンサートでは、部員16人が全8曲を披露。多くの来場者を前に堂々と演奏を披露しました。また、コンサートの運営には卒業生が協力しており、箏曲部の絆の深さが感じられました。



2月21日(火)

明治の迎賓館が130周年

慶雲館の130周年を記念して「長浜盆梅展入館サービス」が実施され、多くの人で賑わいました。年齢を合わせて130歳になればグループ全員の入館料が無料になるなど、「130」にちなんだ催しが行われました。130人目の来館となったのは、盆栽が趣味という愛知県豊川市の岩瀬さん。「初めて来た盆梅展で祝福され、大変嬉しい」と笑顔で話し、記念品のミニ盆梅を受け取りました。



2月27日(月)

伝統の重みを体験

びわ中学校の1、2年生約140人が、人形浄瑠璃「富田人形」を体験しました。富田人形の保存伝承のために富田人形保存会が実施したもので、中学生の体験教室は初開催となりました。富田人形の歴史や成り立ち、伝承活動について説明を聞いた後、実際に人形の操作を体験。3人で操る難しさに戸惑いながらも、保存会メンバーの指導を受けて徐々に慣れるにつれ、富田人形の伝統の重さと楽しさが感じられたようでした。



このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介します。あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報課（☎65-6504）までお知らせください。市公式Facebookページでもさらに詳しくみることができます。

<https://www.facebook.com/nagahama.hotnews>

「長浜 ほっとにゅーす」

検索

3月4日(土)

ことばを楽しむ催しが盛りだくさん

長浜市民交流センターで、長浜市言葉を大切に作るまちづくり推進協議会が主催する「わくわくおはなしフェスタ」が開かれ、パネルシアター創始者の古宇田亮順さんと高橋司さんの公演や同協議会の会員による発表会が行われました。パネルシアターは歌遊びやゲーム等がふんだんに取り入れられ、家族連れらに大人気。朗読劇や映像を使った読み聞かせも会場を大いに沸かせ、子どもたちは時間を忘れて楽しんでいました。



3月4日(土)～12日(日)

人こそが長浜の魅力

長浜の魅力を写真で発信しようと昨年スタートした「長浜ローカルフォトアカデミー」。そのアカデミーで学んだプロジェクトメンバー11人の写真約30点を展示する「長浜写真」が、湖北観光情報センター四居家で開かれました。写真の主役となっているのは長浜の人々。いきいきとした表情や温かい笑顔を切り取った写真はどれも魅力にあふれ、観に訪れた人々は写真一枚一枚に惹きつけられた様子でした。

3月5日(日)

湖北ならではの味覚を堪能

湖北自慢の郷土料理を味わうイベント「グルメの集い」が、朝日漁業会館と湖北みずどりステーションで開かれました。この催しは、27回目となる冬の人気恒例イベント。募集人数を上回る約170人が参加しました。メインの鍋料理「うなぎのじゅんじゅん」をはじめ、「ふなの子造り」や「子鮎の天ぷら」、「いさぎ豆」など、代表的な湖魚料理がずらり。湖北の冬の味覚に舌鼓を打つと自然と笑みがこぼれていました。



3月12日(日)

珍しくておいしい「ジビエ」に舌鼓

命の大切さを実感しながら、高級食材「ジビエ」を使った料理を楽しむイベント「野生獣の命をいただく感謝の集い」がウッディパル余呉多目的遊技場で開かれました。野生獣の個体数増加による獣害を防ぐために狩猟した、シカ肉などが提供され、集まった人たちは焼肉やカレーライス、猟師汁、どて煮など様々な料理に舌鼓。長浜の自然の恵みに感謝するイベントとなりました。